令和６年２月１日　学校だより第９号　新発田市立猿橋小学校　http://saruhashi-e.shibata.ed.jp

猿橋小学校　瑳玖良

瑳玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

校歌のルーツを訪ねて

校長　磯部 裕之

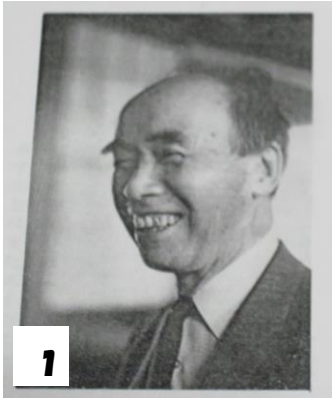
１月１日に発生した能登半島地震では、200 名を超える方が亡くなり、今もなお多くの方が避難生活を余儀なくされておられます。心よりご冥福をお祈りするとともに、１日も早く日常の生活が取り戻せるように願ってやみません。

令和６年がスタートしました。今年は、猿橋小学校が生まれて 150 年目の節目の年に当たります。今回は、猿橋小学校の校歌のルーツに迫ってみたいと思います。

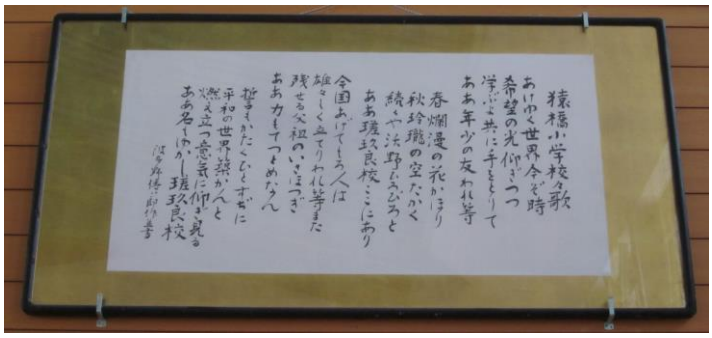
猿橋小の校歌を作詞したのは波多野傳八郎（はたのでんぱちろう）という方です。（写真１）波多野さんは現在の阿賀野市に生まれ、その後、今は既に閉校となっている阿賀野市の出湯小学校や新発田市の荒橋小学校の校長先生をされております。校歌が作られたのは、昭和 24 年とされておりますので波多野さんが 60 歳を過ぎてからということになるようです。

なんと偶然にも、この波多野さんのお孫さんに当たる方が、現在猿橋小学校にお勤めでありました。新発田市日本語指導員の阿久津ルミ子先生です。（写真２）校歌のお話をお聞きすると「母から『当時の猿橋小学校の校長先生が祖父に校歌を作ってほしいと頼みに来たんだよ』と聞いたことがあります」とのことでした。猿橋小学校の体育館に飾られている校歌の字を見て、阿久津先生は「これは、祖父の字だ」とすぐに分かったそうです。

波多野さんは、晩年、新発田市史（写真３）の編集委員長として、その編さんにも多大なる功績を残しておられます。新発田市役所脇にある札の辻広場の石碑「札の辻跡」という字も波多野さんが書かれたものでした。（写真４）これからも猿橋小学校の校歌を大切に歌っていきたいと思います。


1

旧安田町での
歌碑除幕式にて



2

3

4